

平成 27 年 3 月 2 日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦
(TEL. 04-7131-0181)

「当社有価証券の含み益増大について」

～当社連結子会社ウェッジ社の好業績による株価上昇の影響～

当社の重要な子会社であります東京証券取引所ジャスダック上場の株式会社ウェッジホールディングス(以降ウェッジ社)は本年2月13日に2015年9月期第1四半期決算を発表いたしました。当該発表において、タイ上場リース会社 Group Lease PCL(以降GL社)の売上高が過去最高を達成したことや、10-12月期(GL社における2014年第4四半期)において実質的に過去最高益を達成したこと、この数年間の ASEAN 全域での同社の展開の嚆矢となったカンボジア王国における急速な事業成長が確認されました。これを受け、タイ国内を中心にアナリストレポートなどでも好感されております。

その後、ウェッジ社の株価は直近2月12日の終値 163 から2月末日には 440 円へと約 2.7 倍(169.9%の上昇)となっております。

本件につき、当社の保有する株式の価格ならびにいわゆる含み益がどの程度であるのかについて、各所よりお問い合わせいただいておりますので、ご説明いたします。

当社は 2010 年 12 月から 11,200 円でウェッジ社株式を担保権の行使により取得し始めました。その後、保有株式が増加することにより、同社を連結子会社としております。この度の急上昇により、当社の保有する株式の時価は約 64 億円となり、当社の取得総額約 16 億 8000 万円を大幅に上回っております。

結果、当社のいわゆる含み益は現在 47 億 2000 万円となっております。

当社経営といたしましては投資家の皆様の当社子会社ウェッジ社の事業成長に大いに期待していたに深く感謝しております。一方で、私どもといたしましては、ウェッジ社の行っている、ファイナンス事業、コンテンツ事業、リゾート事業の3事業とも、それぞれ「他に例を見ない」これから大いに成長する事業と考えております。この度の決算結果は一つの成果ではありますが、将来を見ればこれらの事業はここで終わるものではありません。

これらの事業のポテンシャルを鑑みますと今後中長期的にはこの結果を数十倍にする成長を見せる

ことが私どもの責務であると確信しております。経営者といましては、株価そのものは私どもの力の及ぶところではございません。今後とも、地道に事業に一意専心取り組み、当社が他に行っております、スポーツ事業、食品事業、ゴム事業も加え、大きく社業を成長させますことが、投資家の皆様、取引先の皆様、社員の皆様に答える唯一の道であると肝に銘じて経営を進めてまいります。

今後とも関係各位のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

以上